

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階フロア)

事業所番号	2795800164		
法人名	有限会社サンビック		
事業所名	グループホームサンビック2		
所在地	大阪市平野区加美北1丁目22番29号		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町村受理日	平成28年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝礼時運営理念と倫理綱領を唱和をし理解した上でスタッフがご利用者の今何を必要としているのか把握しながら、個別ケアを行っています。一人一人のペースで安心した穏やかな生活が出来ご利用者様スタッフ共々笑顔がたくさん見られるように日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は4階建ての2・3階部分にあり、1階には小規模多機能型居宅介護事業が併設されている。運営理念である”ご利用者様一人一人の人生が輝くように！”の実践に向け、施設長のリーダーシップにより管理者・職員皆が利用者への”傾聴”を大切にし、利用者本人本位の思いを把握し、永遠のテーマである個別ケアの質向上を地道に図っている。4階は屋上庭園と運営者の部屋があり、四季折々のツツジ・雪柳・花水木、紅葉の木々を植え、年間を通じ、利用者は、ゆったりと日向ぼっこしたり、部屋を使い、楽しんでいる。家族の絆が深い運営者一族は毎日のように事業所を訪問し、笑顔で利用者として接し、利用者・家族・地域住民との信頼関係を率先して築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時運営理念運営方針を唱和し日々の日常生活を大切に過ごせる様実践している	事業所は運営理念と方針を玄関に掲示し、職員は毎日唱和し、共有を図っている。事業所は”傾聴”を大切にし、利用者1人ひとりの個別ケアの進化を図り、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気が良いときの外出、散歩やライブ、加美きっさ、ふれあい喫茶を通じて交流している	町会に加入し、区民祭り、ふれあい喫茶、演歌ライブ等の地域行事に積極的に参加している。運営者が地域住民との交流も深く、地域密着型を実践している。近隣の保育園が定期的に訪問され、園児と交流し、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを行い、交流している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回運営推進会議を行って入居者の情報の報告をし意見交換している	偶数月に地域包括支援センター職員・民生委員・地域福祉コーディネーター・町会代表・家族等に参加を呼びかけ、年6回開催している。単なる事業所報告だけでなく、参加者から意見を聞き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連絡を取りながら協力関係を保っている	生活保護を受けている利用者が多く、区の生活支援課担当者と頻りに連絡を取り、助言も得ている。区主催のGH連絡会や地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し、地域福祉の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスで話し合いを行い身体拘束を避けたケアを中心に考えている	原則、身体拘束は行わないことを明示している。”身体拘束ゼロの手引き”に基づいたマニュアルを整備し、定期的に研修を実施し、職員の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し理解を深めているご利用者様、職員がストレスのない毎日を笑顔で過ごせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートや成年後見人を活用して金銭管理調節をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい説明を行うことに気を付けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様に参加して頂き意見を聴いている	毎月、事業所が発行する新聞(写真入り)と利用者ごとに暮らしぶりの”事実”を職員が記入し、家族に送付している。家族との面会時には意見や希望を聞き、運営に活かしている。苦情処理簿は整備し、職員皆で話し合い、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議、フロア会議で意見交換で意見交換をしている	日々、施設長・管理者・ユニットリーダーに職員は気軽に相談できるようになっている。定期的にフロア会議とリーダー会議を開催し、職員の意見を把握し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修実習などを用いて進める		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換のため食事会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の要望を聴きより良い関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望を聴き信頼関係を築けるように努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学に来て頂き、サービスの説明を行い、必要なサービスを見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできることを一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の状況報告の手紙を家族に送り、安心できる関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出外泊して頂き、関係を保てるように支援している	元職場仲間や住吉公園で知り合った知人及び甥等が来訪され、事業所は継続した支援につなげている。利用者の思いの場所や希望の美容室には事業所が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士助け合い、家事など取り組みながら楽しく自立した生活を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、話し合いの場を作り必要に応じたフォローをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に添えるように努めている	入所時のアセスメントで過去の生活歴を把握し、職員は共有している。入所後も繰り返し、傾聴を大切にし、本人本位の思いや希望を聞き、要望に沿った支援を行っている。運営者は日々、利用者と同じ視線で接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様からお聞きしたり、家人や友人が来られた時に教えて頂いたりして、本人様の望みに活かせるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼申し送りにより情報交換をしている自分らしく過ごせる様に手伝っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカファレス、サービス担当者会議にて意見を出し合い、皆が共有した上でのサービスが行えるように介護計画を作成している	毎月、モニタリングを実施し、チームで利用者ごとの状況を把握し、現状に合った介護計画作成につなげている。サービス担当者会議を開催し、長期6ヶ月で計画を見直し、家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やスタッフが気づいた事を記入し、サービスの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性を重視したケアを大切にし、臨機応変に対応出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベントの情報を教えて頂き、参加させてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームに来て下さる先生とかかりつけ医とで、情報のやり取りがあり、適切な医療が受けられている	従来のかかりつけ医には利用者・家族の希望により受診している。グループの内科医（運営者の子息）は毎日朝往診し、利用者ごとに月2回は往診出来るように支援している。事業所は看護師を配置している。歯科医も定期的に来訪し、必要に応じて治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が適切に対応してくれ受診の必要時など主治医の連絡もスムーズである		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や家人と連携を取り、退院後の生活がスムーズに行えるよう相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所初期に終末期を支援させて頂く事を話し合い、本人様家族様の希望を尊重し、看取りケアも必要に合わせて支援している	早い段階で重度化や終末期に於ける対応指針書を整備し、家族に説明している。24時間医療連携を構築し、既に過去2人の看取り経験が行われている。施設長は身寄りの無い方では死後等の課題も抱えながら、行政や後見人と相談し、努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成してありそれに加えた研修勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年二回行っており、災害時のマニュアルを準備し、対応出来るようにしている	年2回、消防署指導の下、避難誘導訓練を実施している。災害緊急時に職員が慌てないように、各フロアに分かり易く、手順書を掲示している。夜間時を想定した訓練も実施している。飲料水・米等は最低限、備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮を行いながら対応している。言葉かけの注意を行っている	言葉掛けに気づいた時は施設長は職員と個別面談を行い、注意するようにしている。ことさらに丁寧語でなくてもよいが呼称～さんや幼児言葉の禁句は徹底している。接遇研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の自己決定できるようにいくつかの選択肢を用意している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々体調や気分が変わることがあるので、その場にあった対応をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望に沿った身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月手作り食事会を行い、共同作業の機会をとっている	栄養士がいる外部委託業者のクックチル方式で食材を調達し、提供している。事業所は御飯とみそ汁を手作りし、利用者は出来る範囲で手伝っている。毎月、昼食や夕食の手作りイベントを実施し、利用者は楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ間で情報共有を行い入居者様に合わせた対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄口腔ケアの声掛け、介助などを行いながら支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンをつかみ自立に向け支援している	オムツは出来るだけリハパンだけの使用に努め、日々の排泄パターンを把握し、日中は誘導で自立排泄につなげている。水分補給や体操を大切にし、便秘予防の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、冷水を飲んで頂いたり、体操などを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調に合わせて気持ち良く入って頂く様に努めている	週2回は個浴の入浴が出来るように支援している。体調不良や嫌がる利用者には個々に沿った支援を行い、利用者との信頼関係を築いたり、職員のケアに入る言葉掛け等の質向上を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活リズムを大切にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の状態変化を報告し、医療との連携を行ってミスがないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は自分でして頂き利用者様の楽しみを生かしたイベントを企画している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニなどへの外出の機会を持っている	日常的に近隣を散歩したり、屋上への日光浴で外気に触れるように努めている。車を使った花見や紅葉狩り等イベント外出も定期的に行っている。ふれあい喫茶等の地域行事にも積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はして頂き、出来ない方は安心サポートを利用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望時にフロアの電話を自由に使って頂けるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを行うなどしている	浴室・トイレはゆったりしている。構造上、間口が限られているので居間兼食堂は狭い感はあるが壁には季節を感じる貼り絵やイベント時の写真を飾り、机の配置等に工夫し、居心地よく過ごせるように支援している。屋上の庭園や運営者の部屋も併用して使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の自由な時間を持って頂けるような支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が大切にしている物、使い慣れたものをそのまま使って頂く等居心地良く過ごしてもらえるようにしている	居室は仏壇や使い慣れた置物を持ち込み、テレビも設置している。壁には家族の写真等を飾り、利用者は安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からない方のためにフロアトイレ居室が分かりやすいよう目印をつけて工夫している		